

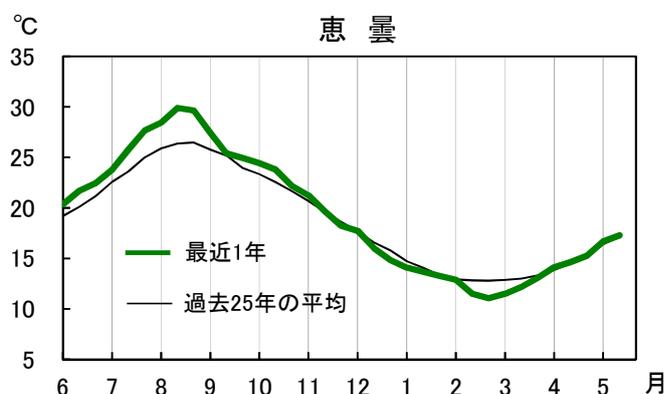
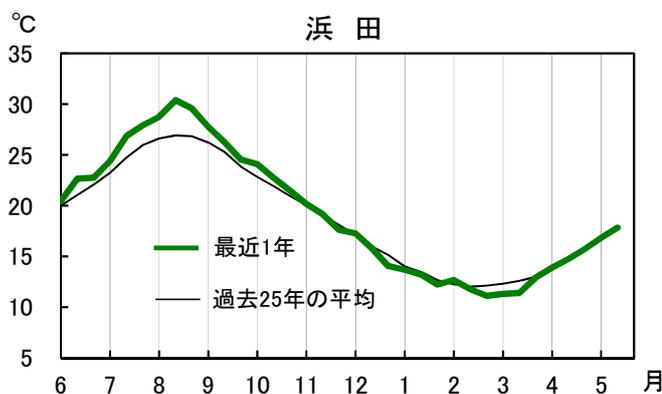


《3～5月の海況》

3月	月平均	平年差	評価
浜田	11.9℃	-0.7℃	かなり低め
恵曇	12.2℃	-0.8℃	かなり低め

4月	月平均	平年差	評価
浜田	14.8℃	+0.1℃	平年並み
恵曇	14.7℃	+0.2℃	平年並み

沿岸定地水温は、浜田地区では3月は上・中旬が「かなり低め」でした。一方、恵曇地区では3月は上旬が「はなはだ低め」、中旬が「かなり低め」でした。3月下旬は両地区とも「平年並み」となり、4月も同様の傾向が続きました。5月に入っても、中旬時点では同様に「平年並み」で経過しています。



《3月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではマアジ、スルメイカ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年を下回りました。マアジ、スルメイカはそれぞれ平年の6倍、16倍となりましたが、例年主体となるサバ類は1割未満でした。総漁獲量を見ると平年並みでしたが、出漁日数が例年より多かったため、結果として1統1航海当りでは平年を下回りました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではサバ類、カタクチイワシ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年を上回りました。近年漁獲量が増加しているマイワシは水揚げがありませんでしたが、サバ類、カタクチイワシは、西郷地区でそれぞれ19倍、1.8倍、浦郷地区でそれぞれ15倍、1.5倍となりました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではスルメイカ主体（全体のほぼ100%）の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は644kgで平年を上回りました。一方、西郷地区（属人5トン以上）では漁獲がありませんでした。西郷地区で3月に本漁業種類で漁獲があった年は、2009年以降では2013年だけです。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではキダイ、ヒレグロ、マフグ主体の漁況で、1統1航海当たり漁獲量は平年の9割の水揚げに留まりました。キダイは小型サイズを主体に好調に推移し、平年の2.2倍の水揚げとなり、ヒレグロも平年の1.9倍の水揚げとなりました。一方、ムシガレイ、ソウハチは低調であり、平年の6～7割の水揚げに留まりました。

【小型底びき網漁業】

和江地区はヒレグロ、ソウハチ主体、久手地区はヒレグロ主体の漁況でした。1隻1航海当たりの漁獲量は和江地区では平年並み、久手地区では平年を4割上回りました。両地区とも、ソウハチ、ヒレグロ、アカガレイの3魚種で全体の7割を占めました。ヒレグロの水揚げは、久手地区では平年の2.6倍となりましたが、和江地区では平年並みとなりました。またソウハチは平年並み～平年を下回る水揚げとなりました。

【定置網漁業】

石見地区ではサワラ類、マアジ主体の漁況で、1 統当りではサワラ類、マアジがそれぞれ平年の4倍、1.3倍だったものの、例年主体となるブリが2割、その他の魚種も平年を下回るものがあったため、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。出雲地区ではスルメイカ、ヤリイカ、マアジ主体の漁況で、1 統当りではスルメイカ、ヤリイカ、マアジがそれぞれ平年の4割、3割、6割、その他の魚種も概ね不漁であったため全統の総漁獲量は平年を下回りました。隠岐地区ではブリ、マアジ、スルメイカ主体の漁況で、1 統当りではブリが平年の3倍、マアジは平年並みだったものの、スルメイカが4割、その他の魚種も平年を下回るものがあったため全統の総漁獲量は平年を下回りました。

【釣・縄】

出雲地区ではブリ、ヒラマサ、サワラ類が主に漁獲され、1 隻1 航海当りの漁獲量は34 kgで平年並みでした。石見地区ではヒラマサ、ブリ、サワラ類が主に漁獲され、1 隻1 航海当りの漁獲量は26 kgで平年並みでした。隠岐地区ではブリ、カサゴ・メバル類が主に漁獲され、1 隻1 航海当りの漁獲量は40 kgで平年を上回りました。出雲・石見地区ではヒラマサが好調で、漁獲量は全地区で16.5 トンであり、平年の3.5倍でした。

《4月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではマアジ、スルメイカ、サバ類主体の漁況で、1 統1 航海当りの漁獲量は平年並みとなりました。マアジ、スルメイカはそれぞれ平年の6倍、5倍だったものの、サバ類は1割未満となりました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではカタクチイワシ、マアジ、ブリ、サバ類主体の漁況で、1 統1 航海当りの漁獲量は平年を下回りました。主体となった魚種は概ね好調だったものの、近年漁獲量が増加しているマイワシが全く漁獲されなかったため、平年を下回る結果となりました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではスルメイカ主体（全体のほぼ100%）の漁況で、1 隻1 航海当りの漁獲量は398kgで平年並みでした。スルメイカ以外ではケンサキイカが漁獲量28kg、アオリイカが4kgとわずかですが混じりました。一方、西郷地区（属人5トン以上）ではスルメイカのみ（全体の100%）の漁況で、1 隻1 航海当りの漁獲量は213kgで平年を上回りました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではキダイ、ムシガレイ主体の漁況で、1 統1 航海当たり漁獲量は平年並みの水揚げとなりました。キダイは依然として好調に推移し、平年の2.2倍の水揚げとなりました。またムシガレイ、ソウハチもまとまり、平年並みで推移しました。このほか、月後半からケンサキイカが好調に推移し、平年の1.2倍の水揚げがありました。

【小型底びき網漁業】

和江地区はソウハチ、ヒレグロ主体、久手地区はニギス主体の漁況でした。1 隻1 航海当たりの漁獲量は、和江地区では平年の8割の水揚げに留まりましたが、久手地区は平年並みの水揚げとなりました。両地区ともソウハチは低調で、平年の4~6割の水揚げに留まりました。このほか、ヒレグロは平年並み~平年を上回る水揚げ、ニギスは平年並み~平年を下回る水揚げとなりました。

【定置網漁業】

石見地区ではブリ、マアジ主体の漁況で、1 統当りではブリが平年の6倍、また、例年漁獲量が少ないサワラ類が好調であったため、全統の総漁獲量は平年を上回りました。出雲地区ではブリ、マアジ、ヒラマサ主体の漁況で、1 統当りではブリが平年の1.7倍、その他の魚種も概ね好調であったため全統の総漁獲量は平年を上回りました。隠岐地区ではマフグ、マアジ主体の漁況で、1 統当りでは例年漁獲量の少ないマフグが平年の8倍と全魚種で最も多い漁獲量となり、その他の魚種も概ね好調であったため全統の総漁獲量は平年を上回りました。

【釣・縄】

出雲地区ではブリ、サワラ類、ヒラマサが主に漁獲され、1 隻1 航海当りの漁獲量は50 kgで平年並みでした。石見地区ではブリ、ヒラマサが主に漁獲され、1 隻1 航海当りの漁獲量は36 kgで平年並みでした。隠岐地区ではブリ、カサゴ・メバル類、スルメイカが主に漁獲され、1 隻1 航海当りの漁獲量は52 kgで平年を上回りました。全地区でブリの漁模様が好調で、漁獲量は全地区で207 トンであり、平年（120 トン）の1.7倍でした。

※2月の中型まき網漁業（浜田地区）におけるマサバの水揚げに誤りがありました。

誤：平年の5倍 正：平年の1.2倍

【平成 26 年 3 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ、スルメイカ	187トン	180%	86%	9.8トン	95%	57%	▲
	西郷	サバ類、カタクチイワシ	6,748トン	125%	188%	137.7トン	153%	217%	◎
	浦郷	サバ類、カタクチイワシ	3,291トン	83%	151%	71.5トン	105%	137%	◎
イカ釣り (5トン以上)	浜田	スルメイカ	56トン	534%	191%	644kg	221%	145%	◎
	西郷	漁獲なし	-	-	-	-	-	-	-
沖合 底びき網	浜田	キダイ、ヒレグロ、マフグ	289トン	92%	79%	11.6トン	88%	89%	▲
小型 底びき網	久手	ヒレグロ	190トン	111%	123%	1,007kg	106%	137%	◎
	和江	ヒレグロ、ソウハチ	296トン	85%	97%	925kg	82%	102%	○
定置網 (大型)	浜田	休漁	-	-	-	-	-	-	-
	美保関	スズキ、ヤリイカ、スルメイカ	16トン	45%	43%	178 kg	39%	43%	▲
	浦郷	マアジ、スルメイカ、ブリ	14トン	31%	87%	500 kg	29%	79%	○
釣り・縄	仁摩	カサゴ・メバル類、メダイ、ヒラマサ	4トン	63%	35%	32kg	107%	73%	▲
	大社	ブリ、ヒラマサ	15トン	85%	50%	35kg	106%	67%	▲
	西郷	カサゴ・メバル類、メダイ	2トン	49%	59%	20kg	86%	98%	○

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは全てを-、前年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは前年比を-、平年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは平年比を-とした。

今月は「ケンサキイカ情報」はお休みです（5月号から再開する予定です）。

【平成 26 年 4 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ、スルメイカ、サバ類	504トン	580%	153%	20.2トン	232%	119%	○
	西郷	カタクチイワシ、ブリ	5,571トン	80%	95%	64.0トン	47%	69%	▲
	浦郷	カタクチイワシ、マアジ、サバ類	1,846トン	47%	62%	28.4トン	35%	43%	▲
イカ釣り (5トン以上)	浜田	スルメイカ	121トン	360%	494%	398kg	61%	106%	○
	西郷	スルメイカ	49トン	1405%	859%	213kg	172%	225%	◎
沖合 底びき網	浜田	キダイ、ムシガレイ	294トン	105%	99%	12.8トン	110%	105%	○
小型 底びき網	久手	ニギス	186トン	166%	124%	751kg	91%	102%	○
	和江	ソウハチ、ヒレグロ	297トン	114%	98%	720kg	76%	77%	▲
定置網 (大型)	浜田	ブリ、ヒラマサ	1,143 kg	23%	21%	571 kg	136%	178%	◎
	美保関	スズキ、サワラ類、スルメイカ	70トン	165%	114%	725 kg	147%	198%	◎
	浦郷	マフグ、マアジ	77トン	188%	364%	2.8トン	181%	592%	◎
釣り・縄	仁摩	ブリ、スルメイカ	14トン	383%	92%	38kg	161%	96%	○
	大社	ブリ、ヒラマサ	62トン	225%	139%	72kg	139%	107%	○
	西郷	スルメイカ、カサゴ・メバル類	12トン	291%	198%	47kg	192%	189%	◎

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは平年比を－とした。

【ケンサキイカ情報】

発行日：平成26年5月19日

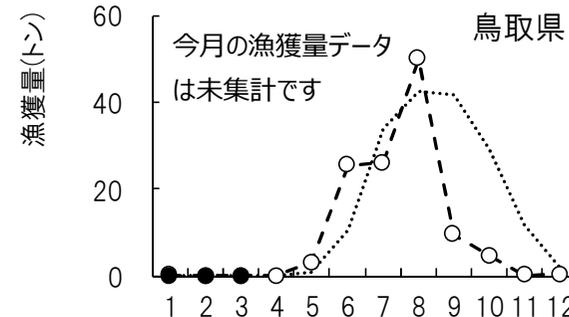
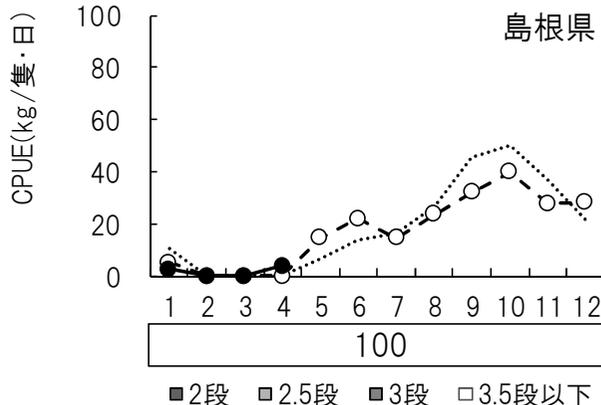
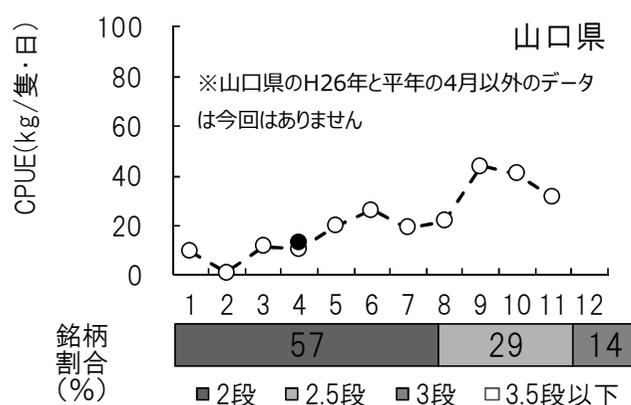
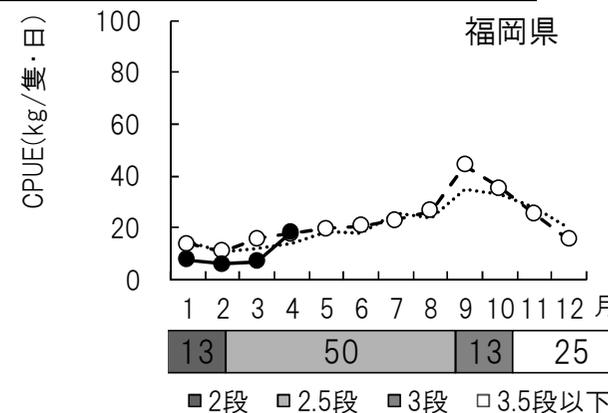
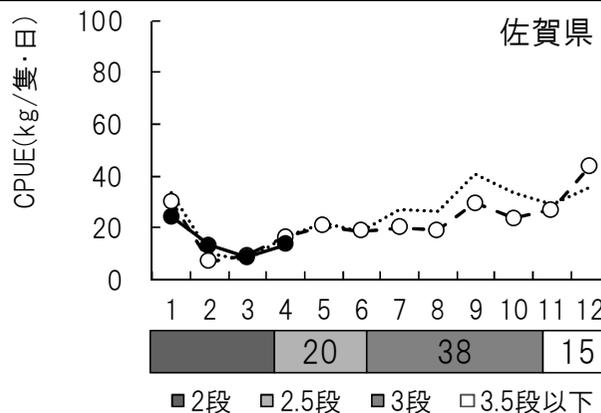
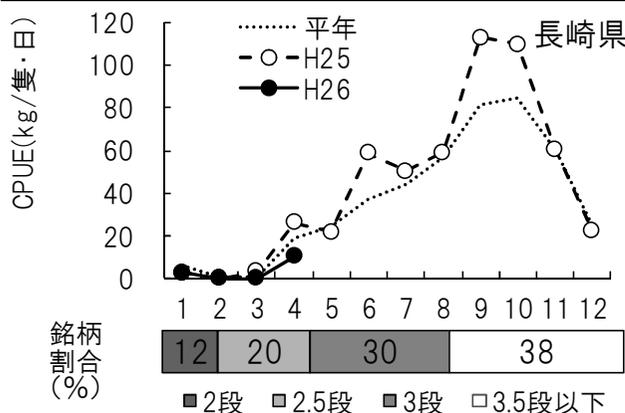
長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

I：4月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

全般的に低調な漁況であったようです。各県の状況は以下のとおりです。

長崎県	4月の漁獲量は前年(前年比23%)、平年(前年比57%)を大きく下回りました。	佐賀県	標本漁港の4月の漁獲量は、前年比71%、前年比80%と、前年・平年をやや下回りました。	福岡県	代表港の4月の漁獲量は前年比72%、前年比115%でした。また1～4月の累積漁獲量は前年比41%、前年比51%と低調に推移しています。
山口県	4月の漁獲量は、県西部では前年・平年を上回りましたが、東部では前年・平年を下回りました。	島根県	シーズンオフのため、主要7港のケンサキイカの水揚げ量はわずか4kgでした。	鳥取県	現在の所、鳥取県沖ではほとんど漁獲されていません(4月漁獲量は未集計)。



※平年は過去5年(H21～H25)の平均値

Ⅱ：5月上旬の底層水温

長崎県	五島西沖の観測を行っていません。	佐賀県	壱岐水道は16.5～16.9℃で平年並み、対馬東水道は14.5～16.8℃で平年並みからやや高めとなりました。	福岡県	沿岸域は、16℃台で平年並み、沖合域は15～16℃台と平年並みからやや高めとなっています。
山口県	底層水温は8～15℃台で平年並みからやや高めでした。	島根県	水深200m以浅では、温泉津沖は2～15℃、浜田沖は4～15℃でともに「かなり低め～平年並み」でしたが、高山沖は2～15℃で「はなはだ低め～平年並み」でした。	鳥取県	水深100m前後の底層水温は12～14℃でした。



図 長崎県～鳥取県の沿岸域・沖合域における底層の水温分布図